

書塾の仲間たち

第 272 回

こうふう

虹風 (茨城県つくばみらい市)



●書塾からひとこと●

書写書道同好会「虹風」を開き、おかげさまで一年を迎えることができました。

茨城県つくばみらい市の自宅アパートおよび「みらい平コミュニティセンター」をお借りして、約三十名のお仲間とともに楽しく活動しております。最寄り駅は、つくばエクスプレス線「みらい平駅」です。つくばみらい市は東京の秋葉原駅まで直通で四十五分という利便性もあり、令和九年度には県内最大規模の中学校が新設される予定があるほど、人口が増加している地域です。

当会は月謝制ではなく気軽に、来られる時に「自由に」参加するという形で運営して、ご好評をいただいています。その反面、だんだん足が遠くの方がいることも事実です。

全体として、親子でご参加くださる方が多く、微笑ましく思っております。童話作家・新美南吉さんが描く世界にも、動物たちの親子愛がよく表現されています（『手袋を買いに』『でんでんむし』『里の春、山の春』など）。子どもの頃に、親御さんと一緒に書写書道を学んだ経験が、将来大きな力となり、素晴らしい思い出になってほしいと思っています。

月刊「書写書道」の、季節感ある、学習進度に合った課題語句を楽しみながら、毎月昇級や写真版を目指して励む方から、それぞれのペースで取り組まれる方まで、幅広くご参加いただいています。

デジタル化が進む世の中ですが、書写書道の楽しさや素晴らしさが時代を超えていつまでも伝わっていくよう願っております。

虹風 古谷 浩之

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。



「自分の書道」を見つけない

栃木県下野市立古山小学校六年 山口 真歩

私は、小学一年生のときに書道を習い始めました。きっかけは、母にすすめられて書道の体験教室に行ったことです。初めて書いた作品を両親と祖父母に見せたら、「上手だね」とほめてくれて、とてもうれしかったのを覚えています。書いている時間も楽しく感じたので、書道教室に通うことにしました。

書道では、始筆を入れる位置や向き、曲がるころなどで、自分の思うように筆を動かさないことが多く、私はそこに苦手意識をもっていました。文字を難しく感じたとき、私はお手本を正確に写す練習をしたり、筆の向きを確かめてから書き始めます。そうした工夫を続けるうちに、以前よりも字が上手になってきたように感じています。

昨年と今年、書道教室の先生や友達と一緒に、日本武道館で行われる書初め大会に参加しました。本番では、配られる清書用紙が二枚だけで、さらにどちらを提出するか自分で選ばなくてはいいけないので、とてもきんちょうしました。練習したとおりに大きな文字を堂々と書くことができて、とてもいい経験になったと思います。

また、高円宮杯では、日本武道館奨励賞をいただき、授賞式にも参加することができて、とてもうれしかったです。

私はこれからも書道が続けて、もっと上手な字が書けるようになっていきます。そして、自分の想いをきれいな字で伝えられるようになりたいです。さらに、自分の個性を字で表現したいです。そのために、「自分の書道」を見つけて、もっと成長したいです。日本の伝統文化である書道を、これからも楽しみながら続けていこうと思います。

私と書写書道 第272回



自分なりに工夫し、納得いくまで書く

広島県熊野町立熊野第二小学校六年 中原 亜緒

私は、兄と姉が書道を習っていたこともあり、母のすすめで、幼稚園の年長になったときに書道を始めました。習い始めのころは、えんぴつで波線や直線をなぞったり、歌に合わせて五十音の読み書きを習いました。兄や姉と一緒に通えることはとても心強く、楽しかったのを覚えています。

学年が上がって、小学六年生になった今は、妹と一緒に通っています。おけいこ中に妹の様子が気になり集中できないこともありましたが、兄や姉のように、私も妹にとって心強い存在になりたいと思っています。

おけいこでは、課題も難しくなってきましたが、先生に日々指導してもらいながら、あきらめずに挑戦しています。それでも、先生に指摘されたところを直せなかったときは、くやしくて泣いてしまうことがあります。そんなときは、どうやったらお手本のように書けるのか、たくさん考え、自分で工夫しながら、納得のいく字が書けるまで何枚も書いています。

書道を習っていて楽しいのは、友達との他愛もないおしゃべりや、書道について話すときです。また、頑張って書き抜いた作品が賞をとれたときは、達成感と充実感でいっぱいになって、とてもうれしく思います。

書道は、私にとって、自分の性格や気持ちを表現できる大切な方法のひとつです。

来年、私は中学生になります。行書はまだ書いたことがないので難しく思うのですが、これまでの経験を生かし、頑張って挑戦したいです。支えてくれる家族や友達、いつも熱心に教えてくださる先生への感謝の気持ちを忘れず、これからも楽しく書道が続けていきたいです。